

海外ネットワークを存分に生かした「外国語で学ぶ」教育プログラム

私立大学等改革総合支援事業タイプ4（選定：平成26～29年度）



関西外国語大学

取組のポイントや補助効果

- ◆ 真のグローバル化を促進させるための大胆な投資
- ◆ 目指す方向性を確認するための一つの指標

関西外国語大学は1945年に開校し、現在では世界54カ国・地域の383大学と協定を結ぶなど全国でもトップクラスの海外ネットワークを構築している大学である。

その建学の理念は「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成」と「公正な世界観に基づき、時代と社会の要請に応じていく実学」であり、さまざまな国際交流を通じて真の国際人を育成している。

広大な芝生と荘厳な建物が立ち並ぶ国際色溢れる中宮キャンパスにて取材を実施した。

取組に至る背景

常に時代のニーズを捉えながら、グローバル化する社会で必要とされる資質を身に付けた人材を育成してきた。今後も新たな学びの機会を提供し、教育プログラムをさらに強化していく必要があると考えている。

建学の理念である「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成」の具現化が取り組みに至った一番の背景である。

取組の目標・目的

圧倒的な海外ネットワークを生かし、毎年約1,800人もの学生を383大学の協定校に派遣

している。単に英語を学ぶだけではなく、「留学先大学における専門学部の授業を学べるプログラムへの派遣」を目標としている。目標を達成させるために、専門学部の授業を受講できる英語力とアカデミックスキルを身につけることを目的に、当大学のカリキュラムを踏まえて学生のレベルに合った形のプログラムを海外の協定校と共同開発することとなった。

取組内容

Super IESプログラム

長年、英語集中プログラムとして実施してきたIES（Intensive English Studies）プログラムをさらに発展させ、2017年度からSuper IESプログラムをスタートした。このプログラムは英語教育に関して、海外の協定校383大学の中で特に定評のある大学3校と提携したものだ。その3校を皮切りに翌年度は協定校を増やし4校の大学とプログラムを実施している。

専門分野を学ぶ留学に備えるために、10年以上にわたり実績を積み上げてきたIESプログラムを、海外協定校で実践されている英語教育と融合させた。

英語における「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能に加え、留学先での学部レ

ベルの授業に対応できるようにするために Content-based Approach（内容中心教授法）を用いた。コンテンツを学びながら、その文脈の中で英語を理解していくため、実際の使われ方や内容をより深く理解することが可能となる。

1年生の春学期からスタートするプログラムが三つ、1年生の秋学期からスタートするプログラムが一つ、2年生の春学期からスタートするプログラムが二つある。

また、海外協定校と共同で実施するプログラムは授業として週12回開講されている。英語力に加え海外の留学に耐えうるだけのアカ

デミックスキルと専門性を身に付けるために、授業はすべて英語だけで行い、人文科学系や自然科学系、社会科学系といった内容で開講している。英語分野で資格を持つプログラム協定大学の教員、または海外から直接招聘した外国人教員が担当している。1年間の学習後、半年間の留学準備教育を経て留学するプログラムが基本となっている。

英語「を」ではなく、英語「で」学ぶ留学を実現させるために開発された、まさに Superプログラムである。

現在も更なる協定大学を増やすべく、引き続き交渉を行っている。

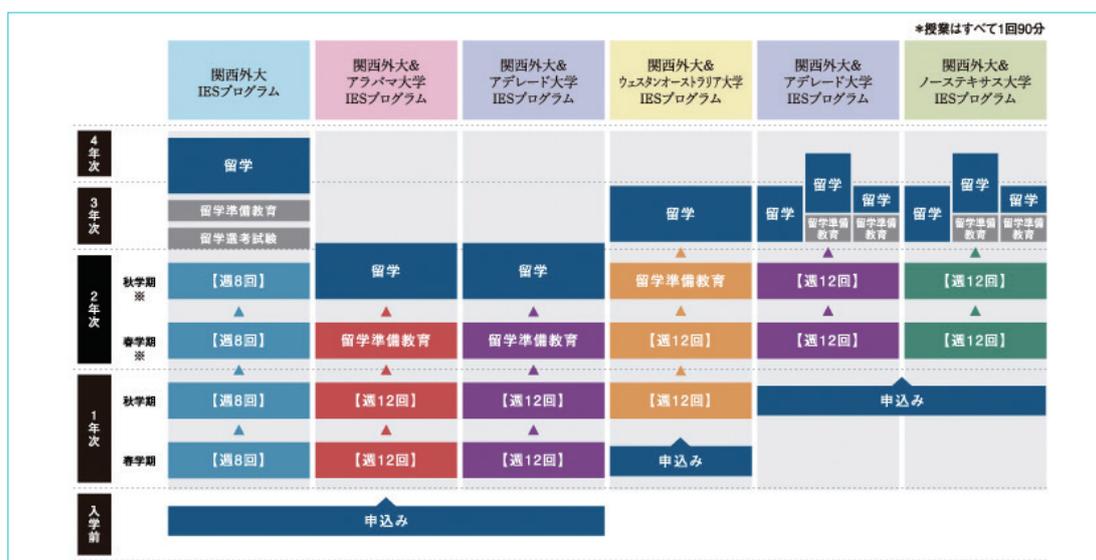


図1 留学までの学修モデル

	月	火	水	木	金	土
1	Super IES					
2	Super IES	試験英語				
3		国際関係論		キャリアデザイン	国際関係論	
4	Super IES	試験英語	Super IES			
5				留学概論		

Legend: Yellow box = Super IES プログラムの科目; Pink box = コース科目・コース共通科目

図2 時間割例

≡ 関西外大流グローバル人材育成プログラム

留学生の受け入れも積極的に実施しており、383大学の協定校を中心に年間約620名の留学生を受け入れている。これまでは留学生別科として開講していたアジアを中心とした文学、歴史学、社会学といったリベラルアーツの授業を、学部の教育課程の中に組み込むことにより、留学生と日本人学生がともに勉強できるプログラムに発展させた。そのプログラムが関西外大流グローバル人材育成プログラムである。

全学部・学科の学生が対象であり、すべての授業を英語で学び、ディスカッションを中心とした海外の大学と同レベルの授業が展開されている。高度な語学力を有し、多様な国や文化、民族、歴史、宗教への寛容さを持ち、客観的・論理的思考力を身に付け、さらに、コミュニケーション力、ネゴシエーション力、ファシリテーション力を持つ人材の育成を目指すプログラムである。

また、Super IESプログラムと連動させており、先述したSuper IESプログラムの半年間の留学準備期間としてこの関西外大流グローバル人材育成プログラムを受講することで、さらに英語力やアカデミックスキル、留学先で学ぶ専門科目の内容についてベースをつくり、留学に行くことができる。

≡ GLOBAL COMMONS 結 -YUI-

今回取材を行った中宮キャンパスから西へ400mの地に、2018年4月より新しいキャンパスを開学している。その名も「御殿山キャンパス・グローバルタウン」である。「キャンパスは“ちきゅう”」という当大学のビジョンをより象徴的に具現化した国際教育・交流の一大拠点となっている。

キャンパス内には学生と留学生合わせて約700人が暮らす生活空間「GLOBAL

COMMONS 結 -YUI-」という国際寮が建設された。交流するための工夫として留学生部屋と日本人学生部屋を交互に配置していることや、大きなリビングやフロアを設けていることが挙げられる。このような工夫が留学生と日本人学生の自然な交流を促し、それぞれの文化の理解へとつながっている。



実施体制

プログラムの立ち上げに関しては、すべて学長によるリーダーシップのもとで実施してきた。教員と職員、部署の枠を超えたチームを編成し、そのチームが主体となり協定やカリキュラムに関する交渉等を実施している。課題が発生する度にプロジェクトチームが編成され、多い時にはミーティングが週に何回も実施される。一度プログラムが立ち上がると、学生の英語力向上の成果をはじめ、カリキュラム内容や教え方、授業参観等を通じてさまざまな確認を実施する体制が新たにできるため、既存の委員会との調整を図りながら、柔軟に対応している。

理事会では各取り組みを毎年の事業計画書の大学案内の重要課題として議題に含め、内容を検討し、企画決定をしている。

取組後の変化

ここでは大きく二つの変化を紹介する。

一つはオープンキャンパスや説明会での学生と保護者の興味関心についてである。広報においては大学案内やトピックスとして前面に出しているため、非常に多くの質問を受けるようになった。

オープンキャンパスの来場者数は取り組み後に大きく増加している。Super IESプログラムや関西外大流グローバル人材育成プログラムは、学生保護者をはじめ高校の先生方からも注目度が非常に高い。

もう一つは充実した英語教育に対する在学生の反応についてである。「先生が非常に熱心である」、「高校まで受けていた授業とは全く違う」、「留学に対する意識が変わった」といったコメントが寄せられるようになった。

取り組み開始から時間が経っていないため、地域や就職先等からの具体的な反応は得られていないが、今後必ず良い成果へつなげると考えている。

成功のポイントや苦労した点

成功の最も大きなポイントは学長を中心としたマネジメントを実施したことであるが、それに加え、語学が堪能な教職員が多数いることも取り組みを推進する力となっている。

もう一つのポイントはこれまで蓄積してきた数多くのノウハウを持っていることである。すなわち、長年にわたって協定校との信頼関係を構築してきた実績こそが、今回の取り組みを成功へ導いたと考えている。

最も苦労した点は協定校との交渉である。協定校と当大学の間において、教育レベルやカリキュラムに違いが生じることがある。当大学のカリキュラムと学生に合わせてカスタマイズを依頼する交渉が非常に難しかった。

英語力を伸ばすため要求するレベルが高くなればなるほど、多くの条件面で折り合わないケースが出てくるが、今後も協定校の理解と協力を得るために、細かなやり取りと度重なる交渉を根気強く続けていきたい。

今後の課題・展望

今後の展望については、Super IESプログラムにおける協定校をさらに増やすことと、学生の英語力を底上げすることである。国内での留学疑似体験はできるが、実際に留学した学生とは英語力に差が生じてしまうこともある。留学を望まない学生であっても、Super IESプログラムに準ずるもの、あるいは従来のIESプログラムを発展させることで、すべての学生のレベルを上げていくことが必要であると考えている。

国際化の成果は時間がかかり非常に見えにくいものである。国際化を図る指標は存在するが、数値化しやすい事項については比較的取り組みやすいものが多いことも現実である。

外国語大学である以上、成果の数値化が難しい事項についても積極的に取り組むことは当然である。今後は国際通用性、質の保証を念頭に置き、建学の理念である「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成」をより一層具現化していきたいと考えている。

